

第3部 フォスタリングチェンジ・プログラム

15:00~16:15 パネルディスカッション

コーディネーター 広島国際大学教授 松崎佳子
アドバイザー 長野大学教授 上鹿渡和宏
パネラー 福岡: 松崎佳子 (NPO 法人 SOS 子どもの村 JAPAN)
三重: 野田珠輝 (三重県北勢児童相談所)
静岡: 佐野多恵子 (静岡市里親家庭支援センター)

福岡から

SOS 子どもの村では、2014 年度から上鹿渡和宏先生のご指導の下、児童相談所、福祉関係や里親会のメンバーからなる企画委員会を立ち上げ、日本での本プログラム導入に向けて検討してきた。2016 年 2 月福岡において日本初のファシリテーター養成研修を実施した。

児童相談所との協働で第 1 回 2016 年 5 月～8 月、第 2 回 2017 年 5 月～7 月里親研修会を実施した。第 1 回研修会の実施状況については報告書を参照していただきたい。今年度(第 2 回)は、養育里親、ファミリーホーム里親に加えてファミリーアシスタント(里親補助者)も参加され 6 名の受講であった。出席率は昨年度と同様 97%と非常に高いものであった。温かい雰囲気の中(これが重要)で、家庭での実践の報告やグループワーク、里親同士の交流を通して、モチベーションが高まると思われた。

スキル実践後、“こんな場合は?”という疑問が生じると、近いセッションでその問題に対応するスキルが登場するなど、非常に実践的に練られたプログラムであることを改めて実感している。「原点回帰できる基礎ができた」「少し工夫すれば楽しんで養育ができる」など今後の養育に対する自信が育まれたことが窺え、家庭でのスキル実践も里親自身が主体的に考え対応していくことが増えた。「自分が変わると子どもがとても楽になったよう」等、自己への気づきも多い。

終了後の評価では、「子どもの行動の変化」

4.3 点(5 点満点)「里親と里子の関係性の変化」4.5 点(同様)と高かった。

今年度は事例シナリオを日本名に工夫したことで里親の受け止め方は格段に上がった。今後、さらに事例等を日本の生活習慣に応じたものにしていくことや、各地の実践体験を共有し深めていくネットワークの構築、評価法の確立が必要と考えている。

三重から

三重県では、里親を対象としたスキルアップ研修の一つとして本プログラムを位置づけ、今年度の新たな取り組みとして試験的に実施することを決定した。

三重県児童相談センターが実施主体となり、5 月 11 日(木)から 8 月 3 日(木)までの日程で全 12 セッションを実施(毎回、10 時から 13 時)。4 月に児童委託中の里親に募集し(概ね 5 歳から 12 歳までの児童を委託中の里親又はファミリーホーム職員を受講対象と限定)、9 名(養育里親 6 名、養子縁組里親 1 名、ファミリーホーム職員 2 名)が受講した。県内全域から想定を超える応募があり、会場である三重県津市にある児童相談センターまでは遠方となる受講者が多数を占めたが、出席率は 97.2%であった。ファシリテーターは、2 月にファシリテーター養成研修を受けた北勢児童相談所の児童心理司と児童福祉司の 2 名(男性)が担当し、協力職員 4 名(女性)を加えた体制でプログラムを運営した。

プログラムの進行では、受講者の積極的な参加姿勢に支えられた。毎回のセッションにおける家庭での実践課題にも熱心に取り組んでいただいた。セッション後半にはグループとしてのまとまりが見られ、最終的に受講者9名全員がプログラムを修了することができた。

受講者からはプログラムへの肯定的な評価を多数聞くことができた。子どもへの声掛けの仕方がより具体的・肯定的になった、里親自身が感情を客観的にとらえられるようになった、子どものちょっとした不作法は流せるようになった、子どもを褒める回数を増やすようになった、子どもがアテンディングを楽しみにしている等々。そのような声が聞かれ、養育中の里親を対象とした研修として、プログラムの有効性があったと考えられる。

今回の受講者を対象に11月にフォローアップセッションを行い、プログラム修了後の家庭での取り組みや状況等を共有する場とする予定である。

なお、次年度のプログラムの継続開催も積極的に検討しているところである。

静岡から

〈FCP実施の経緯〉

平成17年に静岡市に児童相談所が設置され、同時に乳幼児が多く措置された。乳児期から同一家庭で養育されていても、思春期に差し掛かると“社会的養護が必要な子どもに多くみられる問題”が起こることが分かってきた。静岡市は平成27年度里親委託率が全国一位となるものの、同時に不調ケースも出始めた。里親養育スキルアップ研修は年10回（講座）実施しているが、「理論→エクササイズ→実践」の一連の学習サイクルを12回に亘り繰り返し学ぶプログラムに注目し、児童相談所・里親会・里親家庭支援センターにて協議し実施を決めた。

〈対象〉

・幼稚園から小学校中学年の里子を養育中の養育里親6名（内 専門里親1名）

・ファシリテーター（以下Ftと記載）：里親家庭支援センター元SW2名（女性）

〈プログラム実施に向けての準備と心掛け〉

・大人を迎える気配りともてなし（英国流）

里親はいつも気忙しい。「もてなし」によって大人の良識と責任を以って、子どもを丁寧に大切に扱う、里親の誇りと自負を促す。

・柔軟なペア構成⇒セッション内容に合わせる

・プログラムの中でのソーシャルワーク⇒テキスト中の理論に、Ftの持つ経験（エピソード、事例、ケース）を足し、普段の生活の中で活用できる方略を具体的にイメージさせることで、里親が効果を体感した。

〈グループ学習のメリット〉

・気持ちを吐出す、共有、共感、つながりを深める場とし貴重な時間となった。

・回を重ねるごとに自身の思いを言葉にするようになる。

・「居心地がいい」と感じられるグループワークに。

*出席率100% 無遅刻無欠席

〈子どもの変化及び里親子の関係性の変化〉

・里親自身の気持ちや行動に目が向いた。（自分自身を肯定的に見る）

・子どもの「良くないところを直す」→「良いところを強化する」に変化。

〈修了後の参加者〉

・里親仲間に受講を勧める

・グループの繋がりを継続（LINE）

・定期的なフォローアップ研修の実施を望む（10月と来年1月に開催予定）

〈今後〉

・FCPが市内外のスタンダードになると里親養育スキルの指標になりうるため、継続して開講していきたい。

・プログラム修了者を地域の養育サポーターに